

会員便り

”古代の匠に挑戦” 石棺復元に参加して！

日時…2月8日
場所…今城塚古墳

内容…日本で初めて素人が石棺作りに挑戦！

淀川流域屈指の巨大前方後円墳である今城塚古墳の石棺には、兵庫県高砂産の「竜山石」、熊本県宇土産の「馬門石」、大阪府・奈良県境の「二条山白石」という3種類の凝灰石が用いられていた。石材が3種類なら石棺も3基あった。

今城塚古墳の墓室は横穴式石室であり、そのため3基の石棺をおさめることが出来たのだと想定出来るとのこと。

竜山石（今回の石材）は、兵庫県南西部魚橋山産（岩石学的には流紋岩質溶凝灰岩と呼ぶ）花崗岩並に硬い。このように重くて大きい石棺の原石の採掘の方法、搬送にも多くの中継地と人力を要した事でしょう。驚かされる事ばかりです。

石工が使う道具には、採石用や細工用など、作

業工程や用途に応じて大きさや形の異なる多様なものがあつたと考えられています。

古墳時代の道具類はまだ確認されていませんが、石棺などに残された痕跡からはノミやチョウナが



実技体験

存在していたことがうかがえるとのこと。（大事な工具なので研ぎながら使用したので見つからないのか？）

現在では、立派な工具が準備出来るし、目にゴーグル、軍手、マスク、エプロンを装着しての安全な実技。石工のプロの方に工具の使い方やノミの当てる方向の実技指導を受け、工具で加工の実技指導を受けます。

会場に来るまでは、軽石の加工なので気楽な気持ちで参加しましたが、

何と硬いこと。・・・石でした！

ビシヤンで約15分の加工で、汗が出てきました。当時の石工には今のよう

注記

ビシヤン…鋼の突起が多く出ている仕上げ用金槌
チョウナ…両刃の金槌
表面を叩いて平らに仕上げる S.O

椿の本陣を訪問して

〜恩師を思い出す〜

西国街道には、沢山の歴史上の人物が、往來していた事でしょう。椿の本陣は、日本の古

い良き建物と生活様式の工夫を、垣間見ることが出来る、当時の生活様式が想像出来、歴史好きの私は、とつても有意義な一時でした。

余談ですが、遠い昔亡父と新潟県に疎開して、柏崎市の学校に通い

たが、当時の高校の国語の先生（もう90才）と、

ずっと交流させて頂き、毎月一日か二日に季節の便りを東京（現在は東京在住）から郵便で送って下さいます。折々の植物、

習慣、食べ物等々、私にとりましてはとても良い糧になっています。

いっぞやは、東京両国の吉良屋敷から、高輪の泉岳寺迄歩かれたそうで

す。仇討ちで傷ついた四十七士が、両国から高輪迄どんな気持ちで歩いたのだろうと、便りに書いていました。

60年前の教師と、ずっと交流を続けさせて貰っている事は、当時戦後の苦しい時代人々の心が通じ合っていたのでしょうか。

甘辛チャンネル

笑顔で心通じ合える世の中に!!

立春を過ぎ日照時間も長くなって来ました。

ある夕暮れ、私はバスを降りて薄暗くなった道を家路に向かって歩いていました。

家の中の禁煙宣言を



「目白来て 椿の落ちる 春になり」

山帰来

T. N

受けておられるのか、ご自宅の前で煙草を吸っておられる、壮年の男性が私に「ねえちゃん暗くなつたから気いつけて帰りや。」思わず「ありがとう!!」と言いました。

「ねえちゃん」と熟年の私に言つて下さったお礼ではなく、夜道を案じて下さった優しい言葉に非常に嬉しくなりました。

そうですね、一昔前には見知らぬ人にも「こんにちは」等々お互いに声をかけをしていた記憶があります。かわいいうちも「こんにちは」「お年は幾つ?」「小学校帰りの小学生達にも「おかえり!!」と声をかけて子供も大人も笑顔でした。

でも、今は不可解な事件が多くて、子供達に声をかけても皆警戒して走り去ってしまう事が多くて、恐怖心を与えてはいけなれないと思ひ、心の中でささやいている状態。

笑顔で心が通じ合える世の中に、なつてほしいものです。 N・Y

チャンネルは不問、多くの方からの投稿をお待ちして居ります。 S・N